

横浜シティ・エア・ターミナル株式会社様 46型大型液晶ディスプレイ導入事例

インフォメーションボードに46型大型液晶ディスプレイを採用し、お客様により見やすく、さらなる情報提供が可能に

横浜駅に隣接する交通至便なビルに位置する横浜シティ・エア・ターミナル様(略称:YCAT)は、新たにバス運行状況を表示するインフォメーションボードを46型の大型液晶ディスプレイにリプレースしました。その決め手となったのが、明るい場所での優れた視認性や豊富な機能、そしてコストパフォーマンスのよさでした。お客様や社員の方からも高く評価されていますが、YCAT様ではテロップによりお客様に役立つ情報を随時流す予定です。

運行便数の多さや多彩なサービスで 神奈川県在住者に利便を提供

始ました。

明るい場所での視認性に優れ 軽量、省スペースなどを実現

横浜と成田空港・羽田空港を結ぶリムジンバスターミナルの運営管理を行うYCAT様は、受付カウンター上部にバスの運行状況の表示を行うインフォメーションボードとして、新たにNECディスプレイソリューションズの46型液晶ディスプレイ『MultisyncLCD4610』を採用しました。

1979年に開業したYCAT様は、1996年に現在の横浜駅東口のスカイビルに移転。羽田空港へは標準所要時間30分、ピーク時には6~7分間隔のバス運行。成田空港へは標準所要時間90分、ピーク時には10分間隔の運行を実現しています。またJAL・ANAの航空カウンターを設けて空港ターミナルと同様の機能を有し、神奈川県在住の旅行者に大いなる利便を提供しています。さらに、たとえばANA国内線を利用される方の手荷物を預かり、そのままてぶらで飛行機に乗り、到着空港で手荷物を受け取れるYCAT様ならではの“YOKOHAMAてぶらサービス”を開発するなど、独自の無料サービスを提供しています。

常に利用者の利便性を最重要視するYCAT様は、旅行者にとって重要な意味を持つインフォメーションボードについても、経年変化によって次第に視認性が低下してきたLED方式のリプレースを計画。複数の候補の中からNECの提案を採用し、2005年9月に設置工事を行い、新たなディスプレイでの運行状況表示を開

リプレースにあたって、総務企画部企画担当部長の横原寛氏は「機能とコストを勘案し、NECの提案の価値が高いと判断しました。NECの大型液晶ディスプレイは、明るい場所での視認性に優れています。また機能に関していえば、使い勝手が非常によくなりました。たとえば従来は固定的な表示しかできませんでしたが、自由に表示を変更できる点も魅力でした」と、選定の理由を語ります。

また従来のインフォメーションボードは質量が重いので、カウンター上部の天井から吊り下げる際、安全性を高めるためH型鋼材を使って補強をしていました。これに対し『MultisyncLCD4610』は質量が約10分の1と軽く、今回の施工に際して「このような補強をする必要がありませんでした」と横原氏は述べます。さらに省スペースや省消費電力の実現、設置後のメンテナンス性のよさについても、横原氏は高く評価します。

YCAT様では、顧客サービス向上のため、ディスプレイのリプレースばかりでなく、必要なシステムの更新を行いました。その内容は、発券機をリプレースして発券時間を短縮することや、インフォメーションボードの日・英の表示切り替えタイミングに合わせて日・英・中・韓の4ヵ国語の音声合成による出発案内放



横浜シティ・エア・ターミナル
株式会社
総務企画部
企画担当部長
横原 寛氏



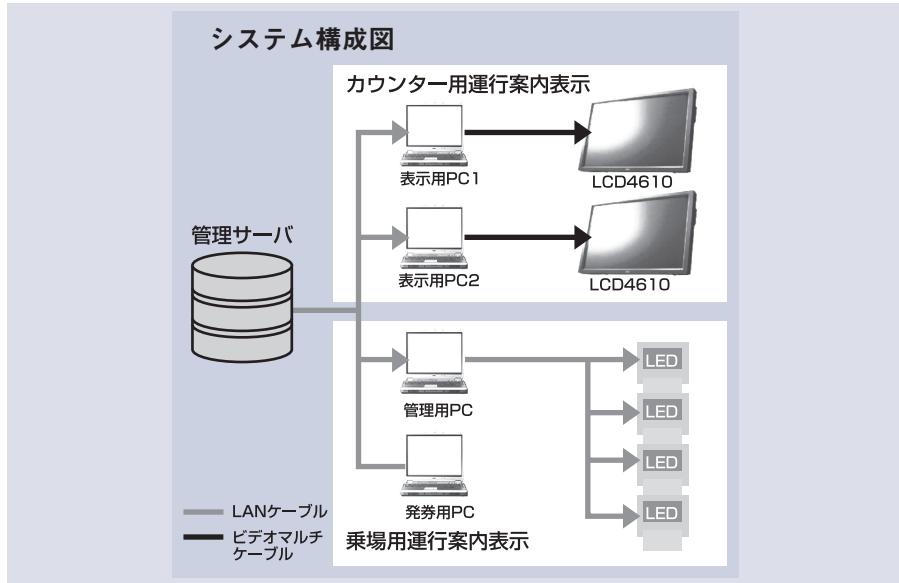
横浜シティ・エア・ターミナル
株式会社
ターミナル事業部
次長
久保 重幸氏



横浜シティ・エア・ターミナル
株式会社
ターミナル事業部
旅客課 課長
田中 日登美氏

お客様プロフィール

会社名 横浜シティ・エア・ターミナル株式会社
設立 1979年(昭和54年)1月
資本金 30億円
従業員数 72名(平成16年3月31日現在)
本社 神奈川県横浜市西区高島2丁目19番12号
スカイビル15階
URL <http://www.ycat.co.jp/>



送を行い、視覚と聴覚による案内などを実現しています。この一連のシステム更新はNECが担当しました。

ターミナル事業部旅客2課課長の田中日登美氏は「業務のポイントは、お客様をお待たせすることなく、いかに流れをスムーズにするかにあります。見やすいインフォメーションボードや案内放送は、その意味でも重要です」と語ります。

お客様の評価も高く タイムリーな情報提供を計画

インフォメーションボードのリプレース後の状況について、ターミナル事業部次長の久保重幸氏は「お客様からも、明るくコントラストがあり、目立つという声が聞こえています。これがボードをリプレースした最も大きな効果といえるでしょう。バスの便数が多く待つことがないという点に加え、わかりやすさという点でのサービス向上につながっているからです」と述べます。

また田中氏は、これからの計画に関し

て次のように語ります。

「今後は、テロップの情報として、たとえば成田空港までのアクセス時間や空港情報など、その時々のタイムリーな情報を随時流す予定です。

従来は自由度が低く、こうしたこともできませんでしたが、今度のシステムではカウンターの端末で容易に変更が可能なため、ぜひ実現していこうと考えています」

横原氏は「インフォメーションボードのリプレースをはじめ、一連のシステム更新に関する提案から施工、導入後の効果、さらにフォローまでを含め、NECの対応は100点満点と評価できます。今後も、お客様のサービス向上につながるよい提案に大いに期待しています」と高く評価します。

問合せ先

NECディスプレイソリューションズ株式会社
日本AP販売事業部
Tel: 03-5446-5230

※記載された会社名及び製品名は、各社の商標または登録商標です。

FOCUS POINT

NECディスプレイソリューションズのコア技術

【パブリックディスプレイ】

①高信頼性パネルの採用

- ・パブリックユース専用パネルを開発、耐寿命と高品位に優れる
- ・長時間使用考慮した「スクリーンセーバー機能」も搭載

②長寿命設計

- ・使用している寿命部品は5万時間の設計目標
- ・パネル内バックライトも約5万時間と長寿命

※室温25度で連続点灯した場合、輝度が初期値の50%になった時点を寿命とします

③自己診断機能搭載

- ・故障箇所の検出や、本体内部の温度状況を検出

④ロングケーブル補正機能

- ・長距離接続時、信号劣化を抑え、色ずれを補正

⑤タイルマトリクス機能

- ・ループスルーにてディスプレイだけでのマルチスクリーンを実現
- ・ベゼル(目地)によって、つながりにくかった映像も補完

【プロフェッショナルディスプレイ】

①スリムベゼル

- ・パネルメーカーをリードし、先行して商品化

②LEDバックライトディスプレイ

- ・NTSC比100%を超える広い色域と高輝度を実現
- ・起動直後や経時変化する表示品質の安定化制御

③ハードウェアキャリブレーション対応

- ・表示品質を損なわずにカラーマネジメントが可能。
- ・専用キャリブレーションソフトウェアを準備

【医用ディスプレイ】

①モノクロディスプレイの白色点調整

- ・弊社独自のバックライトシステムを開発、ディスプレイ間の色合いのバラつきを解消

・経時に変化する色合いを制御

②モノクロディスプレイの調整機能

- ・新開発のキャリブレーションシステムにより長期間において白色点、輝度の維持を実現